

令和 6 年 5 月 16 日

住宅局参事官(建築企画担当)付

**建築物のライフサイクルカーボン算定ツール試行版を公開しました！**

産官学の連携により設置したゼロカーボンビル（LCCO<sub>2</sub> ネットゼロ）推進会議における検討を踏まえ、建築物のライフサイクルカーボン算定ツールである J-CAT の試行版が、本日公開されました。

- 2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、建築物を構成する資材等の製造、運搬、施工、改修、解体に至るまでの建築物のライフサイクル全体において発生する CO<sub>2</sub>（以下「ライフサイクルカーボン」という。）削減に向けた取組みが、欧米を中心に始まっています。
- このような動きを受け、産官学の連携により、令和 4 年 12 月に、一般財団法人 住宅・建築 SDGs 推進センター（IBECs）内にゼロカーボンビル（LCCO<sub>2</sub> ネットゼロ）推進会議<sup>※</sup>を設置し、建築物のライフサイクルカーボンの評価方法の開発や、部材・設備等のデータベース問題の検討、海外情報の収集・共有に取り組んでまいりました。

※ 委員長は、村上周三 IBECs 理事長。会議は、国土交通省住宅局の補助事業により運営し、国土交通省住宅局等がオブザーバーとして参加。

- このたび、IBECs において、建築物のライフサイクルカーボン算定ツールである J-CAT（Japan Carbon Assessment Tool for Building Lifecycle）2024.5 試行版が公開されました。

IBECs J-CAT 公表 HP : [https://www.ibecs.or.jp/zero-carbon\\_building/jcat/index.html](https://www.ibecs.or.jp/zero-carbon_building/jcat/index.html)

- 正式版は本年秋頃に公表予定です。

**【問合せ先】**

国土交通省 住宅局 参事官（建築企画担当）付  
代表電話：03-5253-8111

# ライフサイクルカーボンの算定手法の構築

- ・ 欧米を中心に、従来の建築物の使用段階に発生するCO<sub>2</sub>の削減だけではなく、その**建設から解体**に至るまでの**建築物のライフサイクル全体を通じたCO<sub>2</sub>の削減**に向けた議論が展開。
- ・ このため、産官学の連携により、**ライフサイクルカーボンの評価手法を整備**することを目的に「**ゼロカーボンビル(LCCO<sub>2</sub>ネットゼロ)推進会議**」を**2022年12月に設置**し、検討を開始。

## ライフサイクルカーボンの範囲

## 検討体制

### ライフサイクルカーボン (ホールライフカーボン)

#### アップフロントカーボン

#### エンボディドカーボン

資材製造段階			施工段階		使用段階 (資材関係)					解体段階			
原材料の調達	工場への輸送	製造	現場への輸送	施工	使用※	維持保全	修繕	交換	改修	解体・撤去	廃棄物の輸送	中間処理	廃棄物の処理

#### 使用段階 (光熱水関連)

エネルギー消費  
水消費

#### オペレーショナルカーボン

※冷媒・断熱材からのフロン漏洩等を指す。

これまでのターゲット

### ゼロカーボンビル (LCCO<sub>2</sub>ネットゼロ) 推進会議

委員長：村上周三・一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター理事長

#### ホールライフカーボン基本問題検討WG

- ツール開発SWG
- データベース問題検討SWG
- 海外情報SWG

連携

建設時GHG排出量算出マニュアル検討会  
(不動産協会)